

# 市立函館博物館 友の会々報

No. 60

## 函館ゆかりの現代作家とメディアミックス ～多様化する〈物語〉の味わい方

会員 小倉彩子

### 1. 物語とメディア化、メディアミックス

函館にゆかりのある作家は多いが、意外とその活躍は知られていないことが多い。しかし実際は小説と言う形に留まらず、毎年何かしらテレビドラマや映画、漫画やアニメ、演劇など、他のメディアとなって話題になっていたりもする。

メディアとは、「情報を記録、伝達、保管する媒体」のことであり、また情報の伝達という部分では、「情報を表現する手法」、と言い換えることも出来る。物語を伝達するための最もポピュラーなメディアは紙に文字を書いた小説であり、それを印刷・製版した書籍は広く普及している。また映画やテレビドラマ、アニメーションといった音声と映像によるメディアも現代の私たちの生活によく馴染んでいるし、文字とイラストによる漫画も若い世代を中心に人気がある。小説ならばコンピュータとインターネットの発達により登場したオンライン配信の電子書籍は今後注目されるメディアだろう。

さらに今日ではメディアミックスと呼ばれる商業戦略が盛んだ。これは一つの作品に対し複数のメディアを用いることで新しいファンを獲得、商品の販売促進効果を狙ったもので、原作小説のファンが映画も見に行く、テレビドラマがきっかけで原作小説を購入するといった行動となって現れる。むしろ現在は最初から複数のメディアで発表することを前提として企画が進むことも珍しくない。



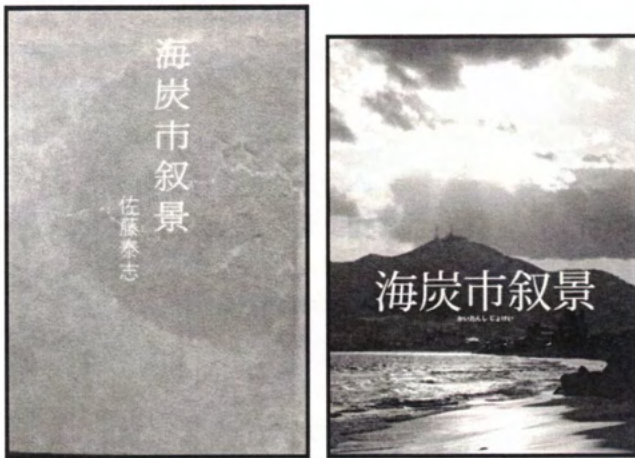
こうしたメディア化によって函館ゆかりの作家の作品がクローズアップされるのは函館市民として大変喜ばしいことである。しかし一方で博物館としてそれをどうフォローしていくのかを考えたとき、幾つかの問題にも遭遇する。具体的に函館ゆかりの作家の作品がどのようにメディア化されているのかについて実態を調査し、その過程で感じたメディアの収集・伝達・保管について考察を加えてみたい。

### 2. 佐藤泰志～地方発信のメディア化による再生

1949年、函館市高砂町（現在の若松町）に生まれた佐藤泰志は、函館西高等学校在学中から北海道新聞社主催の有島武郎青少年文学賞を受賞するなど、早くから純文学の正当な担い手として注目を浴びてきた。國学院大学文学部哲学科に進学、卒業してから後は職に

恵まれず、幾つもの職を転々としながら作家活動を続け、芥川賞候補に五回、三島賞候補に一回なるなど実力を認められながらも受賞ならず、1990年、41歳の若さで自殺した。

佐藤泰志の遺作となった未完の『海炭市叙景』を映画化したのは、同級生ら地元有志達である。その経緯は映画公式サイトに詳しい。監督は旭川市出身の熊切和嘉。佐藤泰志の小説はいずれも長らく絶版の状態となっていたが、2010年のこの映画によって『海炭市叙景』はもちろんのこと、他の作品も文庫本として出版され直すこととなった。メディア化によって再注目させることで、作家やその作品の評価が再考されてくる好例だろう。地方からの発信でも全国的なムーブメントが起こせたという点でも注目に値する。



高専寺赫の表紙が印象的な『海炭市叙景』の原作(左)  
『海炭市叙景』のDVDパッケージ(右)

### 3. 辻仁成～多彩な手法を用いる表現者

佐藤泰志と同じ函館西高等学校出身の辻仁成は、1959年に東京都日野市で生まれ、父親の転勤に伴い、中学三年から高校卒業までの四年間を函館で過ごす。一浪の後に成城大学経済学部に入學するも退学。ロックバンド「ECHOES」(エコーズ)のヴォーカリストとしてミュージシャンの道を歩む。1989年に『ピアノシモ』で第13回すばる文学賞を受賞。その後は作家としても活躍し、1997年に『海峡の光』で第116回芥川賞、1999年に『白仏』でフランスのフェミナ賞外国小説部門を受賞している。

辻仁成は文芸に留まらぬ多彩な活躍を見せる作家だが、自作品のメディア化をプロデュースすることも多い。特に映画については1994年の『天使のわけまえ』、

1999年の『千年旅人』、2001年の『ほとけ』、2002年の『フィラメント』、2009年の『ACACIA』の五作で自ら監督を務めている。特に『ほとけ』と『ACACIA』では函館ロケを行っており、母校西校の前の坂にある消火栓には辻仁成と『ACACIA』で主演したアントニオ猪木のサインが残されている。原作小説が発売されているのは『千年旅人』と『ACACIA』だけだが、他の三作でも脚本や音楽などを自身で手がけている。

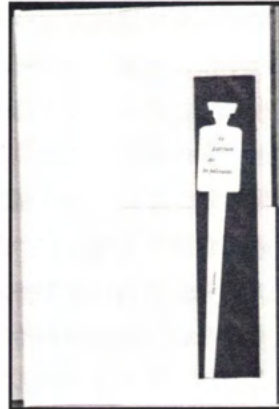
また自らメガホンを取らなかった映画化作品に1997年の『OPEN HOUSE』(行定勲監督)、2001年の『冷静と情熱のあいだ』(中江功監督)、2010年の『サヨナライツカ』(イ・ジェハン監督)があるが、『OPEN HOUSE』は今や売れっ子監督となった行定勲のデビュー作、『冷静と情熱のあいだ』はアイルランドの世界的な女性ヴォーカリスト・エンヤが主題歌を担当、『サヨナライツカ』は一ヶ月で興行収入10億円を突破するなど話題に事欠かない。



待望のDVD化された『OPEN HOUSE』(左)  
『フィラメント』の映画パンフレット(右)

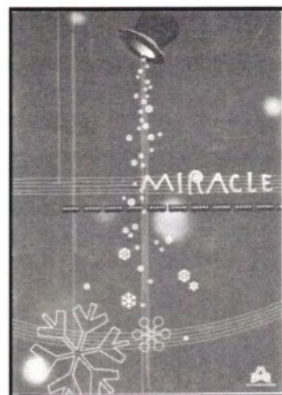
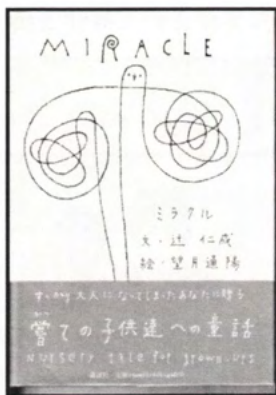
映画以外にも辻作品の映像化は多く、テレビドラマ化された作品に2000年の『愛をください』、2001年の『嫉妬の香り』、2002年の『愛の手前 恋のとなり』がある。『愛をください』は自ら脚本を手がけただけではなく、ヴォーカルをするECHOESが主題歌を歌い、CDの売り上げが50万枚を越すヒットとなった。『嫉妬の香り』は老舗香水メーカーのゲランのジャルダン・バガテルをイメージしており、日本未発売だったものがドラマとのタイアップで一時期日本でも限定販売されていた。このような商品とのタイアップもメディアミックスの特徴である。『愛の手前 恋のとなり』は『目下の恋人』を原作としており、後に原作

タイトルの『目下の恋人』として再編・映画化もされた。



『愛をください』VHSビデオ (左)  
『嫉妬の香り』の初版特典の香り付き葉 (右)

また映画やテレビドラマほど知られてはいないが舞台化もされており、1993年の『フラジャイル』、2011年の『醒めながら見る夢』は自ら脚本・演出を務めている。また2000年の『ミラクル』は劇団イツフォーリーズによりミュージカル化されている。



『ミラクル』の原作文本 (左) 舞台パンフレット (右)

#### 4. 今野敏～人気作家の知られざるメディア化

今野敏は1955年に北海道三笠市で生まれ、函館ラ・サール高校へと進学。青春の三年間を函館で過ごした。上智大学文学部新聞学科在学中の1978年に『怪物が街にやってくる』で第四回問題小説新人賞を受賞。大学卒業後は東芝EMIに勤務、三年で退社して専業作家の道を歩み始める。しかし、今野敏が一躍人気作家になったのは2006年の『隠蔽捜査』で第26回吉川英治文学新人賞し、続く隠蔽捜査シリーズ第二段『果敢～隠蔽捜査2』で第21回山本周五郎賞、第61回日本推理作家協会賞を立て続けに受賞してからのこと。受賞を機

に過去の作品が次々と文庫本として再販されるようになったが、売れっ子になる以前のことは意外と知られていないことも多い。

今野敏の代表作の一つで日本の警察小説の草分けとも言われている安積班シリーズは、2009年から『ハンチョウ』の題名でテレビドラマ化。警察もののテレビドラマシリーズとして2012年4月からシーズン5が始まっているが、シーズン5からは原作から大きく離れたドラマオリジナルの設定になっている。また『ハンチョウ』は業界初の試みとして、シーズン4ではドラマ終了時に漫画を電子書籍として配信しており、漫画は後にコミックス (漫画単行本) として発売している。

今野敏を一躍人気作家にした『隠蔽捜査』シリーズは2007年に『隠蔽捜査』、2008年に『果敢』が二時間のテレビドラマとなった。2011年には『隠蔽捜査&果敢～隠蔽捜査2』のタイトルで舞台化されている。

他に過去にテレビドラマとなった作品に、樋口顕シリーズがある。2003年の『リオ』、2004年の『朱夏』、そして2011年には衛星放送のWOWOWで『ビート』がドラマ化。同じ2011年に同じ別シリーズの『同期』もドラマ化している。



安積班シリーズ『ハンチョウ』のコミックス (左)  
『同期』のDVDパッケージ (右)

また映画化されたものに1995年の『拳鬼』がある。今野作品唯一の映画だが、劇場公開ではなく、オリジナルビデオとして販売されたもので、当時徳間書店の傘下にあった大映が撮影を行っている

今野敏の作品はメディア化されたものが多いが、その特徴として上げられるのは漫画化や漫画の原作があるということ。もう一つに、趣味の模型を生かした小

説化を手がけているということが挙げられる。

今野敏の小説の漫画化に任侠シリーズがある。『とせい〜任侠書房』から始まるこのシリーズは『ハンチョウ』とは違い、完全な原作小説の漫画化である。漫画の原作としては1990年の『スーパーバトルコップ KEIJI』(全2巻)、1996年『運び屋』(全1巻)、1998年『ケンカ駆け込み寺 用心棒』(全17巻)の三作品がある。



『とせい』のコミックス (左)  
原作を手がけた『ケンカ駆け込み寺 用心棒』(右)

趣味の模型制作を生かしたものに、人気アニメ・ガンダムシリーズの二作目『機動戦士Zガンダム』のスピノフ作品『ティターンズの旗のもとに』がある。これは模型雑誌の電撃ホビーマガジンによる企画で、模型、漫画、小説を同時進行で雑誌に連載したもの。今野敏は小説を担当している。他に週刊少年ジャンプの人気漫画『こちら亀有公園前派出所』の小説化を人気作家が競演して手がけた『小説こちら亀有公園前派出所』では、『キングタイガー』の題名で短編小説を寄稿している。



『ティターンズの旗のもとに』の文庫本 (左)  
掲載雑誌の『電撃ホビーマガジン』(右)

### 5. 滝本竜彦〜ひきこもりと漫画とアニメと

漫画やアニメと縁が深い作家に、今野敏と同じ函館ラ・サール高等学校出身の滝本竜彦がいる。滝本竜彦は1978年に北海道上ノ国町で生まれ、高校三年間を函館で過ごす。卒業後は専修大学へと進学するも鬱になり中退。引きこもりになり、生活費が尽きたところで一念奮起し、小説の著作権管理会社・ポイルドエッグズに原稿を持ち込み、『ネガティブハッピー・チェーンソーエッチ』で角川学園小説特別賞を受賞する。

滝本竜彦の小説は漫画やアニメをネタにしたものが多いことからライトノベルと呼ばれる若者向けの小説群に分類され、漫画化やアニメ化になっている。デビュー作『ネガティブハッピー・チェーンソーエッチ』は2002年にラジオドラマ化。その後2008年に漫画化(全二巻)、および実写映画化された。

もう一つの代表作である『NHKによろこそ!』は、引きこもりという現代社会に生きる若者の病理と、そこからの脱出というテーマを実体験を踏まえてリアルに、かつエンターテイメントに仕上げた作品で、2004年に漫画化(全八巻)、2006年にアニメ化されて好評を博した。地元北海道でのアニメ放送がなかったのが惜しまれるが、現在DVDが発売されている。



『NHKによろこそ!』のコミックス (左)  
『ネガティブハッピー・チェーンソーエッチ』映画チラシ (右)

### 6. 宇江佐真理〜時代小説の若い世代へのアピール

これまでは男性作家を紹介してきたが、女性作家で、しかも函館在住と忘れてはならないのが宇江佐真理である。1949年生まれの宇江佐真理は函館中部高等学校を卒業してから大谷女子短期大学へと進学。主婦業の傍ら執筆活動を続け、1995年に『幻の声』で

オール読み物新人賞を受賞し、作家としてデビューした。その後2000年に『深川恋物語』吉川英治文学新人賞、2001年に『余感の雪』中山義秀文学賞を受賞し、数多くの時代小説を発表し続けている。

宇江佐真理のデビュー作にして代表作でもある「髪結い伊三次捕物余話」シリーズは、1999年にフジテレビが連続テレビドラマ化している。当初鬼平犯科帳に代わる時代物シリーズとして全12話として制作される予定が、全9話で実質打ち切りとなっている。なお同シリーズは、その後2009年にラジオドラマ化もされている。

逆に2010年に映画化された『雷桜』は今話題の監督と人気若手俳優を起用して興行的に成功を収めた。さらに特筆すべき事柄として、時代物でありながら若者向けを意識した作りだったことが挙げられる。ピンクを基調とした映像美、そして同年少女月刊漫画誌に漫画を連載するなど、積極的に若者にアピールしたことも要因だったと思われる。若者にはあまり受けないとされる時代小説だが、戦略の立て方次第では十分若者にもアピールできることが証明できたように思う。



『雷桜』のコミックス(左)とDVDパッケージ(右)

## 7. メディアの収集と保存の問題点

統括として今回の調査で感じたメディアの収集と保存に対する幾つかの問題点を指摘しておく。

### 7-1. インターネット

パソコンを所有し、インターネットに繋げることが出来れば時間帯を問わず、遠くに足を運ぶこともなく、誰でも最新の情報が入手できる。携帯端末の発達・普及により益々便利になってきた。しかしながらインターネットは利便性に富む反面、情報の収集と保存には気をつけなければならない点も存在する。

インターネットは誰でも情報を発信、収集できると同時に編集・削除が容易であるということ。今現在簡単に入手できる情報も、数年すればwebページそのものが消されてしまうといったような事が頻繁に起きている。今回の例で言えば辻仁成の2010年公開映画『ACACIA』の公式ブログは残っているが、公式サイトは既に消えていた。もちろん個人が情報発信源である場合、情報ソースが正しいかどうかの問題も加わってくる。

また博物館や図書館では、インターネットに掲載された情報は収集・保存の対象となっていないことがほとんどである。インターネット上の情報は文章、画像の他に、公式サイトであればサイトのデザインも情報に含まれてくる。インターネット上に公開された公式サイトを資料と見なし、文章・画像・デザインの三つの要素を丸ごと保存、資料として活用すべく再現させることは、今後博物館資料におけるメディアの重要性が上がるに従い、考えなければならない問題点となってくるだろう。



現在閉鎖中の『ACACIA』公式サイトトップ画像

### 7-2. 音声・映像

二つ目の問題点として指摘するのは、音声や映像など、再生機器を使用するメディアの収集と保存である。音楽や映像は再生機器無くして再生は出来ず、音声や映像メディアの保存は常に再生機器込みで考えていかなければならない。

また、科学技術の進歩により、音声や映像メディアはめまぐるしい変化を見せている。例として映像メディアを挙げれば、今日では磁気テープのVHSビデオは光ディスクのDVDにとって代われ、Blu-rayなどの新規格が主流となる兆しが見えている。VHSビデオからDVDへと保存媒体の主流が移行する過程の中で、全て

の映像作品が移行された訳ではなく、異なる方法で記録されたものを移行する為には、再生の為の機器だけではなく、移行するための機器も必要となってくる。辻仁成や今野敏のメディア化作品の中にもDVD化されぬままのものがあり、それを今後どうやって資料として利用出来るように残していくのか気になるところである。

さらにテレビドラマの場合、そもそもVHSビデオやDVDなどで一般販売されなかったものも多い。例えば今野敏の『隠蔽捜査』、宇佐江真理の『髪結い伊三次捕物余話』はテレビ局にフィルムは残されているものの、一般にはテレビから録画したものを資料としていくしかないのが現状である。



DVD化されていない『天使のわけまえ』(左)、『拳鬼』(右)

### 7-3. 演劇

テレビドラマ以外で収集が難しいものと言えば、演劇が挙げられるだろう。

演劇は基本的にナマモノであり、映画やドラマと違って映像として記録し保存することを必ずしも行っていない。あるいは映像を記録しても一般販売しないケースも多い。また、パンフレットやチラシも劇場に足を運ばなくては手に入らないことがほとんどで、地方在住者にとっては東京などの主要都市で上演される舞台の資料の入手はかなり難しい。例えば今野敏の『隠蔽捜査』は出演者のファンクラブでの先行予約販売のみであったし、辻仁成の舞台は『ミラクル』のパンフレットは主催劇団で通信販売しているがDVDの販売はない。

今回の発表に当たり入手した演劇関連の資料の多く

はネットオークションや劇団の通信販売、演劇専門の中古販売業者より買い揃えたもので、個人ならいざ知らず公立の博物館が資料として経費で収集していくのは難しいように思われる。



舞台『隠蔽捜査&果敢-隠蔽捜査2』のチラシ(左)  
舞台『醒めながら見る夢』のチラシ(右)

## 8. メディアの功罪

メディア化は作家や作品を注目させると同時に、原作小説の人気にも少なからぬ影響を与える。メディアミックスは必ずしも利点ばかりではなく、メディア化された作品の出来が原作の出来と勘違いされてしまう危険性は否めない。

また小説にはメディア可に向けた作品と向かない作品があり、エンターテインメント性の高い作品が好まれる傾向があるということを踏まえておく必要があるだろう。

とは言え、メディア化は人気のバロメーターの一つであることは変わりなく、函館ゆかりの現代作家の作品はメディア化によって全国的に注目を集めてきた。今後もメディア化される作品が増え続けるだろうが、博物館が情報と資料を収集・保管し、広く市民に函館ゆかりの作家たちの活躍を伝えていってくれることを願ってやまない。

\*一部発表会後に追加したテレビドラマの情報の出典がファンサイト等からのもので、制作元の確認が取れなかったものがあります。(『リオ』『朱夏])

## 巻末資料

## メディア化作品一覧

【原】：原作小説 【映】：映画化 【小】：小説 【テ】：テレビドラマ化 【ラ】：ラジオドラマ化  
 【ア】：アニメ化 【舞】：舞台化 【漫】：漫画化

\*2012/4調べ

## 佐藤泰志

- ・『海炭市叙景』【原】1991年 【映】2010年

## 辻仁成

- ・『天使のわけまえ』【映】1994年
- ・『千年旅人』【原】1999年 【映】1999年
- ・『ほとけ』【映】2001年
- ・『フィラメント』【原】 【映】2002年
- ・『目下の恋人』【原】2002年 【映】2002年  
【テ】2002年（『愛の手前、恋のとなり』）
- ・『ACACIA』  
【原】2009年（『アカシアの花の咲き出す頃』）  
【映】2010年
- ・『愛をください』【原】2000年 【テ】2000年
- ・『嫉妬の香り』【原】2000年 【テ】2001年
- ・『冷静と情熱のあいだ』【原】1999年  
【映】2001年
- ・『OPEN HOUSE』【原】1994年 【映】1997年
- ・『サヨナライツカ』【原】2001年 【映】2010年
- ・『フラジャイル』【原】1992年 【舞】1993年
- ・『ミラクル』【原】1993年 【舞】2000年
- ・『醒めながら見る夢』【舞】2011年

## 滝本竜彦

- ・『ネガティブハッピー・チェーンソーエッチ』  
【原】2001年 【ラ】2002年 【映】2008年  
【漫】2008年
- ・『NHKによろこそ！』【原】2002年  
【漫】2004年 【ア】2006年

## 今野敏

- ・安積班シリーズ 【原】1998年～  
【テ】2009年～ 【漫】2011年
- ・隠蔽捜査シリーズ  
『隠蔽捜査』【原】2005年 【テ】2007年  
『果敢 隠蔽捜査2』【原】2007年 【テ】2008年  
【舞】2011年（『隠蔽捜査&果敢-隠蔽捜査2』）
- ・『同期』【原】2009年 【テ】2011年
- ・樋口顕シリーズ  
『リオ』【原】1996年 【テ】2003年  
『朱夏』【原】1998年 【テ】2004年  
『ビート』【原】2000年 【テ】2011年
- ・『拳鬼伝』【原】1992年 【映】1995年（『拳鬼』）
- ・任侠シリーズ  
『とせい』【原】2004年 【漫】2010年  
『任侠学園』【原】2007年 【漫】2011年
- ・『ケンカ駆け込み寺 用心棒』【漫】1998年
- ・『スーパーバトルコップKEIJI』【漫】1990年
- ・『運び屋』【漫】1996年
- ・『ティターンズの旗の下に』【漫】2003年  
【小】2008年（連載開始2002年）
- ・『こちら葛飾区亀有公園前派出所』  
【小】2007年（『キングタイガー』）

## 宇江佐真理

- ・髪結い伊三次捕物余話シリーズ 【原】1997年～  
【テ】1999年 【ラ】2009年
- ・『雷桜』【原】2000年 【映】2010年  
【漫】2010年

# 博物館への一つの思い

会 員 加 藤 進 二

## 1 初めに

「静中、動あり」

博物館や美術館を訪れ物静かな展示場を順次歩む時、心のほうは逆にわくわくし、一途不可逆に感動に満たされる、、、こんな経験は博物館や美術館を訪れてこそ体験できる。

こんな雰囲気表現するのにもっともふさわしい言葉と思います。

昨今、IT万能の世になりつつある、否、もうなっているとってよい状況かも知れません。このことは、博物館や美術館、図書館などの

管理、運営に大きな影響をおよぼすことと考えられます。実際に出向かなくともインターネットで、資料を閲覧したり電子図書の貸し出しを利用出来るところもあると聞きます。このことは上記、感動や、コミュニティーセンター的教育施設といえる博物館や美術館あるいは図書館の設置目的を損なわないか多少気にかかります。

そんな状況の中、たまたま、博物館友の会の自主的研究活動の発表会にての発表の機会をいただきましたので、自分なりの博物館に対する思いを文学以外の時間芸術（おもに音楽）の収集、保存の要望と考え合わせ発表させていただきました。



## 2 当日の発表内容

予定時間およそ40分

前半は博物館への考え方（思い）、これからの要望を述べさせていただき、後半はアナログ音盤（レコード）を実際に聴きながら、来場の方々と楽しむということにしました。

そういうわけで、決して研究発表と言ったものではなく、趣味の範囲内の勝手な思いに過ぎません。皆さまの博物館に対する思いに影響を及ぼすものでは決してありません。

そういうことで、当日は音楽、特にクラシックが好きなお方にはまあ、楽しかったかも知れませんが逆に興味の無い方にはただの騒音にすぎなかったかも知れません。

## 3 キーワード

### ・収集（コレクト）、保存

それぞれ博物館の機能の一つです。他に研究、展示、ワークショップなど色々ありますが、本日は収集、保存に意を置きます。

### ・アマチュア

プロフェッショナルの対義語 芸術、学問、スポーツなどでの専門家とか職業的研究家でなく、趣味や余技で行う人、素人、愛好家

### ・プレーバック

録音、録画したものを再生すること もし、レコード博物館、音楽博物館があり、来館者にプレーバックを鑑賞させたりしたらそれは普通の博物館の機能でいえば展示に相当すると考えられます。

以上三つ、本日の話の中にとりどころ出てきます（該当部分に下線）。



#### 4 博物館への思いとこれからの要望

いわゆる、偉大な芸術作品というものは例えば、文学作品なら本という形で、絵画や彫刻ならそのものが、大作曲家による名曲なら楽譜 さらに範囲を広げ、貴重な文化遺産、研究、人々の生活の証の文物、資料なども、それぞれ、図書館や美術館、博物館あるいは大学などに収集、保存されており、接しようと思えばいつでも出来、そのすばらしさ、貴重さを実感出来るし、それらは専門家の研究は勿論、アマチュアの研究活動にも大いに利用することが出来る。ただ、アマチュアにとっては、昨今かなり一般市民に開かれてきたとはいえ、大学はまだ、敷居が高い感が全くないとはいえないようです。

こういう時にアマチュアの研究活動にとって力強い味方となるのがコミュニティセンター的教育施設と言つて良い博物館や図書館であると思います。

ここで本題に入っていきます。音楽の話になります。

先に言ったように、大作曲家の手による、いわゆる名曲は楽譜と言う形で残され、その偉大さは専門家ならそれを見る（読む）と、即、解るわけであるが、一般人、アマチュアは良い演奏家の演奏を通じてそれ感ずることが出来ると言つて良い。

その良い演奏家の演奏そのものも偉大な芸術と言つていいと思います。

そうであるのにその演奏が近年（20世紀の初頭当たりぐらい）になる迄全く収集、保存されていなかった。良い演奏家が亡くなるともうその演奏家は過去の言い伝えにしか残らず、忘れられて行く。

その理由は、音楽演奏や演劇等のいわゆる文学以外の時間芸術を記録する術がなかったからと言つて良いでしょう。

だから、過去には演奏家は作曲家に比べ一段低く見られていたようで、事実、指揮者を例にとつても20世紀初頭になってようやく少数名が見出される程度でした。（※1）

その後、時が進むにしたがい有名演奏家の演奏も芸術作品そのものとして収集、保存されるようになった。大いに喜ばしいことと思います。

そのようになったのには、エジソンの発明に端を発した録音、録画の技術の発展があったことが大きな役割を果たしたといえます。

しかし、日本においてはまだまだ十分とは言えない状況と思います。

そんな中で、北海道には誇つていい例があります。→新冠町 レコード館

函館市にも昭和40年代ころか、博物館や図書館とはやや主旨が違うが、フィルムライブラリーなる施設がありました。

このような意味合いから、これからは、録音、録画の媒体も収集、保存し、身近で、いつでも、プレーバックが楽しめるような施設（図書館であれ、博物館であれ）が発展して欲しいと思います。

※1 ハンス、フォン、ビューロー（1830～1894） ハンス、リヒター（1843～1916） アルトゥール、ニキシュ（1855～1922） グスタフ、マーラー（1860～1911 作曲家としても有名） ウォルター、ダムロッシュ（1862～1950） etc

#### 5 発表の後半は、いはば、レコードコンサートでした

ですから、研究発表の形をはなれ、雑談や思い出話等を入れながら話を進めました。

当日は、ベートーヴェンの第7交響曲（時間の都合で第4楽章の冒頭）を取り上げ、収集、保存すべきものの例として下記の演奏を聴きました。

（交響曲第7番イ長調 作品92 について）

・作曲年代 1812年5月

・特徴 「生きとし生けるものへの賛歌」 このイメージは「第9」に良く言われますが、それ以上にこの曲にふさわしい。力強く、躍動的リズム感がある

最近、人気TVドラマ「のだめカンタービレ」のBGMに広く取り上げられ、若い人の間でも人気上昇中。



ベートーヴェン



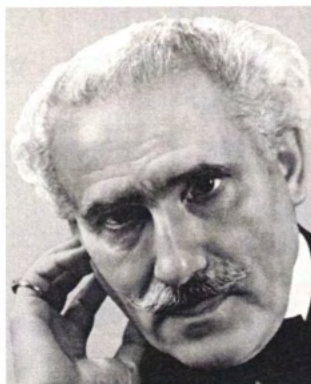
第7 ピーチャム卿盤  
(エンジェルレコード)

- ・アルトゥーロ、トスカニーニ (イタリア 1867~1956) 指揮  
 ニューヨークフィルハーモニー交響楽団 (1936. 4. 9録音)  
 (トスカニーニについて)

楽譜に忠実で余計な思い入れがなく、力強くきりっと引き締まった切れの良い演奏。これこそベートーヴェンの第7なのだというような演奏。

- ・ウィルヘルム、フルトヴェングラー (ドイツ 1886~1954) 指揮  
 ウィーンフィルハーモニー管弦楽団 (1950. 1. 18. 19録音)  
 (フルトヴェングラーについて)

トスカニーニと永遠のライバルと言ってもいいフルトヴェングラー、トスカニーニといはば、正反対の練りに練った演奏、しまいにはトスカニーニのこれぞベートーヴェンの第7というのに対して、これぞフルトヴェングラーの第7になってしまったと言うのにふさわしい。フルトヴェングラーにしてみると、自分の解釈こそ、ベートーヴェンそのものだと思っていたに違いない。



トスカニーニ



フルトヴェングラー

- ・トマス、ピーチャム卿 (イギリス 1879~1961) 指揮  
 ロイヤルフィルハーモニー管弦楽団 (1957. 3録音)  
 (ピーチャム卿について)

彼の父親は現在も盛業中のイギリス屈指の製薬会社の経営者であった。父親は彼を法律家にしたかった。故

に、彼は正式な音楽の教育を受けた事は無かった。しかし、成長するにしたいが、音楽好きが昂じ、ほとんど独学で勉強し音楽活動をするまでに至り、成人してからは、有り余る財力を惜しみなくつぎ込み、オーケストラ（後のロンドンフィル、ロイヤルフィル）を設立、さらに歌劇場（コヴェントガーデン）にも惜しみなく援助した。

そんな経歴の故か彼の音楽に対するアプローチは本質的にアマチュアだった。

本日聴いたレコードからも、アマチュア出身らしい、フレッシュで澁刺とした楽しさが感じられる。

・レオポルド、ストコフスキー（アメリカ 1882～1977）指揮

ニュー、フィルハーモニア管弦楽団（1973.1録音）

（ストコフスキーについて）

映画ファンの方ならご存じと思いますが、有名な音楽映画「オーケストラの少女」や、古き良き時代のアニメ映画「ファンタジア」で颯爽とフィラデルフィア管弦楽団を指揮していたその人である。

彼は良い意味で私の強い指揮者で、本日のレコードからも、わが道を行くといった雰囲気を感じられます。1965年来日、日本フィル、読売日響を指揮。

・ウィレム、ヴァン、オッテルロー（オランダ 1907～1978）指揮

ウィーン音楽祭管弦楽団（録音時期不明）

（オッテルローについて）

ハーグフィルハーモニーの常任を長らくやっていた。1966年初来日、以後亡くなるまでの間読売日響の招きで7回来日、名誉指揮者の称号を与えられていた。真面目で力強く劇的に盛り上がる演奏に特徴があった。



ストコフスキー



第7 オッテルロー盤  
（コンサートホール協会レコード）

## 6 来場された方の中から貴重な提言がありました

発表の内容はおよそ一般論の範囲でしたが、ある方から一歩踏み込んだ、郷土（函館市及び近郊）に縁のある、詩人、歌人の作品に作曲された作品、または郷土出身の作曲家の作品も研究し、録音されたものは収集、保存すべきとの提言がありました。

- ・三木露風 作詞 山田耕筰 作曲「赤とんぼ」「野ばら」
- ・石川啄木 作詞 越谷達之助作曲「初恋」
- ・石川啄木 作詞 高木東六 中村太郎 林 喬木 清瀬保二 作曲「東海の小島」
- ・高橋掬太郎作曲 「函館さのさ」「ソーラン追分」「北海馬子唄」etc

確かに上記作品は郷土や時代を映し、また、郷土を知るための貴重な文化財と言え、その収集、保存は必要であり、考えるところが同じ方がおられたことをうれしく思いました。

## 7 まとめ

### 「博物館に行こう」

函館市に置いて総合博物館建設の機運が高まっていますが、建設されるものは、よい意味でITがとり入れられ、さらに「第三世代の博物館」(※2)となることは予想出来ます。

が、いずれにしても、その際、音楽や映像のような文学以外の時間芸術の収集、保存にも力を入れ、いつでも気軽にプレーバックが出来、楽しく鑑賞出来るような博物館にしていきたいものです。

博物館は実際に訪れてこそ、感動し、その魅力、意義が解ります。

皆様、ぜひ、博物館に行きましょう。

以上、ご批評、ご指導いただければ幸いに存じます。

※2 「第三世代の博物館」 1980年前後あたりから提唱されてきた博物館の新しい概念  
 設立の準備段階から設立後の運営も含めたいろいろな側面に一般市民が積極的に  
 参加、活動できる、今まで以上に市民に開かれた博物館  
 下記参考文献2に詳しい

参考文献 1 「指揮者のすべて」音楽之友社  
 2 「ひらけ、博物館」伊藤寿朗著 岩波ブックレット

### 後記：今年度の主な事業

#### ①元町公園地区の歴史散歩

- ・旧北海道庁、函館市庁舎 ・函館商人四天王像 ・宇須岸、河野館跡
- ・旧相馬邸 ・旧イギリス領事館等

#### ②北斗市(旧大野地区)歴史散歩

- ・郷土資料館 ・文月稲荷神社 ・水田発祥の地記念碑 ・箱館戦争台場山
- ・箱館戦争戦没者墓(光明寺) ・新幹線工事現場

#### ③市立箱館博物館特別展「伊勢神宮と北海道」の見学

#### ④北海道内の博物館等見学の旅

- ・北海道開拓の村 ・北海道開拓記念館 ・北海道大学総合博物館
- ・北海道立埋蔵文化財センター ・登別市郷土資料館 ・室蘭市民族資料館
- ・伊達市開拓記念館 ・宮尾登美子文学記念館 ・洞爺湖火山科学館等

#### ⑤会員発表会 小倉彩子氏、加藤進二氏が発表されました。今号に発表内容を掲載しました。

それぞれの事業は好評裡に終えることができました。会員皆さまのご指導とご協力に感謝を申し上げます。

現在、次の企業・団体から協賛を頂いております。改めて御礼申し上げます。

- ・(株)エスイーシー ・金森商船(株) ・(株)建築設計企画山内事務所 ・(株)五島軒
- ・五稜郭タワー(株) ・(株)佐藤公郎建築設計事務所 ・(有)三和印刷 ・(株)千秋庵総本家
- ・(財)相馬報恩会 ・名美興業(株) ・(有)ヤマ井上米穀店 (敬称略・50音順)